チェンソー安全マニュアル

目次

本取扱説明書では、スチール チェンソーの取扱説明書に記載されている安全注意事項および推奨される切断技術を説明しています。

「主要構成部品」の章では、MS 211 を例として説明しています。これ以外の機種のチェンソーでは、例とは異なる構成部品が使われている場合があります。

本取扱説明書は、各機種固別の取扱説明書の様々な章を参照できるように構成されています。

このため、お使いになる特定の機種のチェンソーの取扱説明書を必ず参照するようにしてください。

この取扱説明書について、ご不明な点がおありの場合は、スチール販売店へお問い合わせください。

元の取扱説明書

無塩素漂白紙使用
印刷インクには植物油が使用され、紙はリサイクル可能です。

© ANDREAS STIHL AG & Co. KG, 2013
0457-184-4321. VA1.E13.
0000000553_004_J

この取扱説明書は、著作権によって保護されています。全権留保。特に複製、翻訳および電子システムを使用した処理に対して保護されています。

使用上の注意および作業方法

チェンソーは、斧やハンド ソーに比べて動作が高速になり、チェンが高速で回転し、カッターが極度に鋭利なため、チェンソーの使用の際は特別な安全に関する注意事項を守ってください。

特に重要なことは、初めて使用する前に取扱説明書を最後まで注意深く読み、必要なときに見られるように保管しておくことです。本取扱説明書に準拠していない操作をすると、重大な傷害や生命の危険にいたる事故を起こす恐れがあります。

事業主損害賠償保険協会、社会保障機関、労働安全基準局などの機関が規定した、貴国の安全規定を遵守してください。

本機で初めて作業をする人は、販売員や専門家などに安全な使用方法を尋ねたり、トレーニングコースを受講してください。

子どもには絶対に本機を使用させないでください - 16 歳以上の若い訓練生は、監督下で作業を進めるようにしてください。

子どもや見物人や動物を近づけないでください。

機械を使用しない時は、他人に危険が及ばないよう横にして置いてください。本機は承認された人以外は使用しないでください。

他者またはその所有物に対して生じた事故または危険に関し、その一切の責任をユーザーが負います。

本機の機種とその操作を熟知している人以外には、提供および貸与しないでください。必ず取扱説明書を、本機と共に渡してください。

騒音を発する機械の使用については、国および地域、現場によって、時間を規制されることがあります。

本機を操作する人は、身体的· 精神的に健康でなければなりません。激しい労働に耐えられない体調の方は、機械の使用前にかかりつけの医師に相談してください。

ペースメーカーを付けている方にのみ該当する注意点：本機の点火システムは微量の電磁界を発生します。ペースメーカーの種類によっては影響を完全に排除できません。STIHL 社では、掛かりつけの医師およびペースメーカーの製造元に問い合せて、健康上の障害について相談されることをお勧めします。

動作を鈍らせるようなアルコールや薬品などを服用した状態では、本機を使用しないでください。

気象条件が悪い場合 (雨、雪、氷、風など)、作業を延期して、**危険性の高い状態を回避してください。**

木や木製製品以外の素材を切断しないでください。

本機は他の目的で使用してはなりません - **事故の危険があります！**

当社が本機での使用を承認した、または技術的に同等の、ツール、ガイド バー、チェン、チェン スプロケット、またはアクセサリーだけをご使用ください。不明な場合は、サービス店にお問い合わせください。高品質ツールやアクセサリーだけをご使用ください。さもないと、事故や本機の破損の恐れがあります。

当社では、STIHL 純正のツール、ガイド バー、チェン、チェン スプロケット、およびアクセサリーだけをご使用いただきますようお勧めします。これらは、本製品に対しても、利用者のご要望に対しても、最適化されています。

本機にいかなる改造も加えないでください。非常に危険です。承認されていないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては当社は一切保証を行いません。

機械の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強い流水で機械の部品を損傷する恐れがあります。

衣服と装備

規定に沿った服装と装備を身に付けること。

作業着は丈夫なもので、身体に合い、作業しやすいことが最も重要です。上掛けのような、だぶだぶな上着ではなく、**切り傷防止用プロテクター付き**の身体にピッタリした作業衣を着用してください。

樹木、低木、機械の稼動部などに絡まってしまうような衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、宝石

なども身に着けないでください。長い髪は束ねて、ハンカチ、帽子、ヘルメットなどでカバーしてください。

切り傷防止用プロテクタ、滑らない靴底で爪先に鋼板の入った**安全靴**を履いてください。

物体が落下してきた場合のため、**安全ヘルメット**を着用してください。

安全ゴーグルまたは**顔面シールド**および「個人用」イヤープロテクタなどの**防音用耳栓**を着用してください。

しっかりした手袋を着用してください。

STIHL では、防護のために各種の作業服や装備をご用意しています。

チェンソーの運搬

チェンソーを持ち運ぶときは、たとえすぐ近くまでであっても、常にチェンブレーキをかけ、チェン ガード (鞘) を装着してください。約 50 m 以上の長距離でチェンソーを運搬する場合、エンジンも停止してください。

チェンソーはハンドル バーを持ち、熱くなったマフラーを身体から離し、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。マフラーの表面など、機械の熱くなっている部分に触れないようにしてください - **火傷の恐れがあります！**

乗り物で運搬する時：機械が倒れたり、損傷したり、燃料が流れ出たりしないよう固定してください。

給油

ガソリンは非常に簡単に引火します - 火気を近づけないでください - 燃料をこぼしたり、喫煙しないでください。

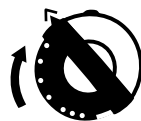
燃料を給油する前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください - 燃料が流れ出て**火災になることがあります！**

燃料フィラーキャップは、燃料が噴出さないように、圧力がゆっくり抜けるように、慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。本機に燃料をこぼしたら直ちにふき取ってください。衣服に燃料が付いた場合は、ただちに着替えてください。

機種により、様々なタンクキャップが出荷時に装着されています。

給油の後は、燃料キャップをできる限りしっかりと閉めてください。

ヒンジグリップ式燃料タンクキャップ (差し込みロック) は正しく差し込み、止まるまで回してからヒンジグリップを下ろしてください。

正しく締め付けられていない燃料キャップがエンジンの振動によって緩んで燃料が漏れる危険を低減します。

給油時や作業時に燃料もれを点検してください。燃料がこぼれたり漏れている場合は、エンジンを始動しないでください - **火傷による命の危険があります！**

始動前

チェンが正しく取り付けられ、良好な状態になっているかチェックします - 本取扱説明書の関連項目を参照してください：

- チェン ブレーキ、前ハンド ガードが正常に作動している
- ガイド バーが正しく装着されている
- チェンが適切に張られている
- スロットル トリガーおよびスロットル トリガー ロックアウトがスムーズに作動する - スロットル トリガーは、手を放したとき自動的にアイドリング位置に戻る必要があります
- マスター コントロール / 停止スイッチが、スムーズに STOP または 0 位置に移動できるか。
- スパーク プラグ ターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします。緩んでいる場合は火花が発生することがあり、漏れた混合燃料に**引火することがあります！**

- 運転装置と安全装置に決して改造を加えないでください。
- 安全な操作のため、ハンドルはオイルや汚れのない、乾いた清潔な状態を保ちます。

正常に作動するチェンソーのみを使用する - **事故の恐れがあります！**

エンジンの始動

機械の給油位置から最低 3 メートル以上離れた場所で始動します。密閉された場所では絶対に機械を始動しないでください。

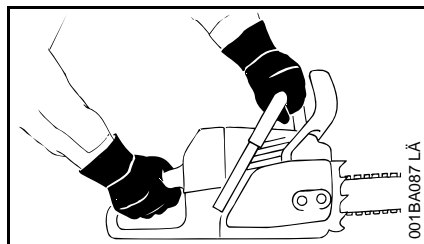
本機は平坦な地面に置いてください。常に安定した足場を確保して、本機をしっかり保持してください。機械を始動したときにソーチェンが回転を開始することがあるため、ソーチェンが障害物や地面に触れないようにする必要があります。

本機は 1 人操作用です。作業地域に第三者が入らないようにしてください。本機械の始動時も同じです。

始動前にチェン ブレーキでチェンをロックします。チェンの回転により**事故**の恐れがあります。

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

チェンが切り口に入っているときは、チェンソーを始動しないでください。

機械の保持と操作

必ず**両手でしっかりと**チェンソーを保持してください。左利きの場合でも右手で後ハンドルを握ります。安全操作のため、ハンドル バーとハンドルをしっかり握ります。

作業中

足場は常に、しっかりと安全にしてください。

差し迫った危険や緊急の場合、マスターコントロールレバーかストップスイッチを 0 または STOP に動かして、速やかにエンジンを停止します。

本機は一人で操作します。他人が作業区域内に入らないようにしてください。

本機を作動させたままで、本機から離れないでください。

エンジン運転中に スロットル トリガーを放しても、コースティング効果（惰性）により チェンは短時間回転し続けます。

滑りやすい表面、水、雪、氷、急な斜面、凸凹な地面、樹皮を剥がしたばかりの樹木の上では特に注意を払ってください。**滑る恐れがあります！**

切り株、根っこ、溝に注意します。**つまずく恐れがあります！**

一人で作業しないでください - 常に、事故があった場合に声を出せば、人が助けに来ることができる範囲内で作業してください。

防音用耳栓を付けている場合、通常より大きな注意が必要です - 危険を告げる声（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなります。

過労や衰弱をさけるために適切な時期に休憩を取ってください。**事故の危険があります！**

木片、樹皮、乾燥した草木、燃料など燃えやすい素材から排気ガスや加熱されたマフラーを離してください - **火事の危険があります！** 触媒コンバータ付きマフラーは特に高温になりがちです。

エンジン運転中は機械から有毒な排気ガスが出ます。このガスは、無臭で目に見えないことがあり、未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、窪地、あるいは狭い場所で作業する時は、十分な換気に配慮してください。**中毒による命の危険があります！**

気分が悪くなったり、頭痛、視界が狭くなるなど視力の障害、聴力の障害、めまい、集中力の低下などを感じたら、即座に作業を停止してください。濃度の高い排気ガスを吸い込むことで、これらの症状が現れることがあります - **事故の恐れがあります！**

本機の使用時に発生する塵埃 (おがくずなど)、気体成分、煙は健康を害する恐れがあります。塵埃が発生する場合は、防塵マスクを着用してください。

短い間隔で定期的に、明らかな変化に気付いたときすぐに、ソーチェンを点検します：

– エンジンのスイッチを切り、ソーチェンが静止するまで待ちます
– 状態および接続部がしっかりしていることを確認します
– ソーチェンが鋭利であることを確認します

エンジンの作動中は、ソーチェンに絶対に触れないでください。ソーチェンに物体が挟まった場合、物体を取り除こうとする前に、直ちにエンジンを停止してください - **ケガの危険があります！**

ソーチェンを交換するには、エンジンのスイッチを切ります - **ケガの危険があります！**

作業中および本機の近くでの**喫煙は**避けてください。**火災の危険性があります！** 燃料システムから、発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあることに、ご注意ください。

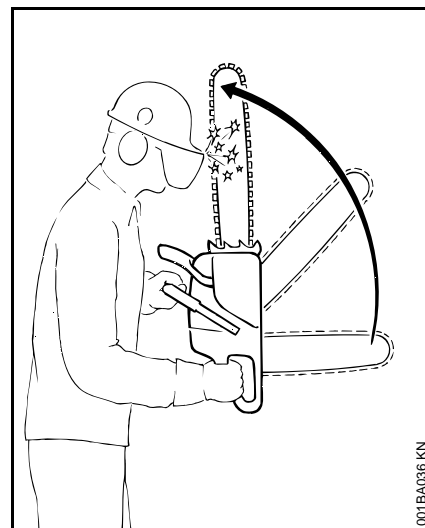
機械に強い衝撃が加わったり落下するなど、所定の負荷を超える異常な負荷がかかった場合は、作業を続ける前に、機械が良好な状態にあることを必ず確認してください - " 始動前 " の項も参照してください。給油システムに漏れがないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認します。チェンソーの動作状態が完全でない限り、絶対に継続して使用しないでください。不明な場合は、サービス店にお問い合わせください。

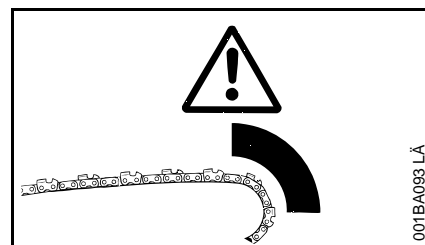
正しくアイドリングしているか確認して、スロットル トリガーを放したときにソーチェンが動作を停止するようにします。アイドリング設定を定期的に点検および修正します。それでもソーチェンが動き続ける場合は、STIHL サービス店に機械の修理を依頼してください。

反発力

最も一般的な反発力は、キックバック、プッシュバック、およびプルインです。

キックバックによる危険

キックバックによって重度の外傷を受ける場合があります。

キックバックとは、次のような場合にチェンソーが、突然コントロールできない状態で作業者に向かって、跳ね返ってくることを言います。

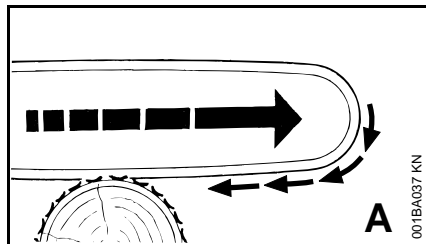
次のような場合にキックバックが発生しやすくなります。

– ガイド バーの先端上部 1/4 の部分で、不意に木あるいは何らかの固い物体に触れた場合 - 例えば切断中に他の木が不意に触れた場合など
– 切断中にチェンが、ガイド バーの先端部分で切り口に挟まれた場合

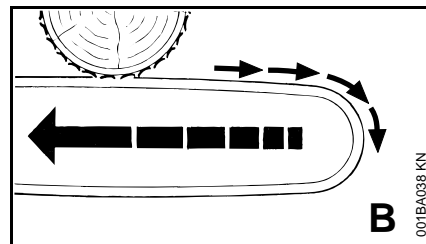
クイックストップ チェン ブレーキ：

一定の状況下で、ケガの危険を低減します - キックバック自体を避けることはできません。チェン ブレーキを作動させるとチェンが瞬時に停止します。この取扱説明書の「ソーチェン」の項を参照してください。

キックバックの危険をて低減するためには

- 落ち着いて、入念に作業します
- チェンソーを両手でしっかり持ち、グリップを確実に握ります
- 常に最大出力で切断します
- ガイド バーの先端の位置に、いつも注意を払うようにします
- バーの先端で切らないでください
- 細くて固い枝、低木群、下生えは特に注意してください。チェンに絡むことがあります
- 決して一度に数本もの枝を切らないでください
- 前のめりりなり過ぎて作業をしないでうださい
- 肩の高さより上にあるものを、切断しないでください
- 途中まで切れている木を再度切るときは、十分注意してガイド バーを切り口に入れてください
- 突っ込み切り作業は、慣れていない人には適していません
- 木々の移動や外部の力によって、切断部分が閉じてチェンが挟まることがあるので、注意してください
- 正しく目立てされ、正しく張られたチェンでのみ作業します - デプス量が大きすぎないように注意してください
- キックバックを低減するソーチェンや先端の径が小さいガイド バーを使用してください

プルイン (A)

上から下への玉切り時などの切断中に、チェンのガイドバーの下部が切り口に挟まれたり、木の中の異物に当たった場合にチェンソーが木材の方（前方）に向かって、突然引かれることがあります。**これを避けるため、バンパー スパイクを木にしっかり当ててください。**

プッシュバック (B)

下から上への玉切り時などの切断中に、チェンのガイドバーの上部が切り口に挟まれたり、木の中の異物に当たった場合にチェンソーが作業者の方（後方）に向かって、突然戻ってくることがあります。**これを避けるため、次のようにします。**

- ガイド バー上部が挟まらないように注意します
- 切り口の中でガイド バーをねじらないでください

次の場合には細心の注意を払ってください

- 垂れ下がった枝
- 他の木々の間で張力がかかっている、突然倒れてくる可能性のある幹
- 防風林での作業

これらの場合、チェンソーを使用せずに、滑車装置、ケーブル ウインチ、牽引装置などを使用してください。

周囲に倒れ、切り込まれたままの幹を引き抜きます。できる限り広い空間で作業してください。

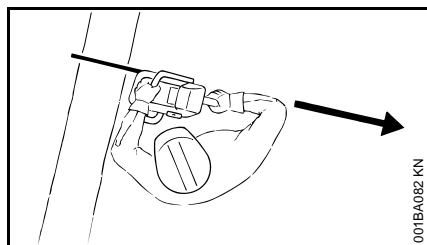
枯れ木(乾燥したり、朽ち果てたり、腐食している樹木)の切断は非常に危険です。危険を察知することは極端に難しく、回避も困難です。ウインチや牽引装置を使用して作業します。

最も注意すべきことは、**道路、線路、電線の近くに材木が倒れた場合です。**必要に応じて、警察、電力会社、鉄道会社に通知してください。

チェンソーによる切断

始動スロットル位置で切断しないでください。このポジションでは、エンジンの回転数を調整できません。

冷静に整然と作業してください。良好な視界と照明を確保してください。他の人に危険が及ばないように、常に注意してください。

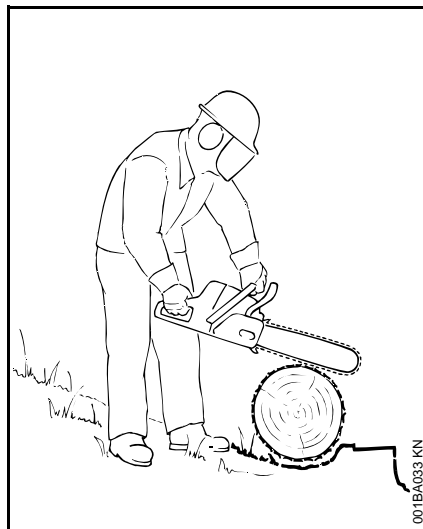
できる限り短いガイド バーを使用します:チェン、ガイド バーおよびチェンスプロケットが正しく組み合わされ、お使いのチェンソーに適合している必要があります。

ソーチェンの**移動範囲**の周囲から身体のいずれの部分も確実に離してください。

チェンソーを切り口から引き抜くときは、常にチェンを動かした状態で行ってください。

チェンソーを切断以外の、枝や根に穴をこじって開けたり、すくったりする作業に使用しないでください。

吊り下がっている枝を、下側から切断しないでください。

割れた木を切断するときは特に注意してください。**自分の方に破片が飛んできてケガをする危険があります!**

チェンソーが異物に触れないように注意してください。石材、クギなどが飛び散り、ソーチェンを損傷したり、ソーチェンが不意にキックバックすることがあります。

傾斜では、山側、幹や倒れた木側に立ちます。切り落とした幹が転がることに注意してください。

高所での作業時:

- 常にリフト バケットから作業します
- はしごや枝に乗っている間は、絶対に本機を使用しないでください
- 不安定な場所では、絶対に本機を使用しないでください
- 肩の高さより上にあるものを切らないでください
- 本機を絶対に片手で使用しないでください

フル スロットルで切断を開始して、バンパー スパイクをあてがって、ソーチェンを作動させます。

バンパー スパイクなしでチェンソーを使用しないでください。チェンソーが突然引き込まれることがあります。常にバンパー スパイクでしっかり固定します。

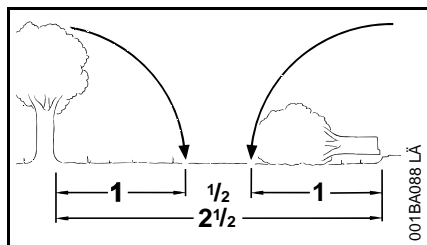
切断し終わると、機械のバー。チェンは切り口で支持されません。本機の重量を作業者が支える必要があります。**制御できなくなる危険があります!**

樹木の伐倒

特別なトレーニングを受講した作業者だけが伐倒を実施できます。チェンソーを使い慣れていない作業者は伐倒や枝払いをしないでください。**事故の危険性が増します!**

伐倒技術に関しては、国の規制に従ってください。

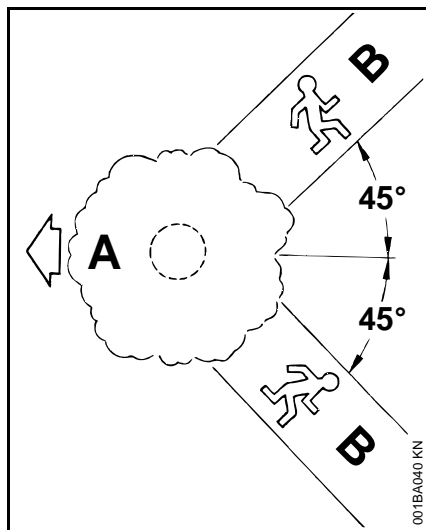
伐倒作業者だけが伐倒区域に入ってください。

伐倒で他の人が怪我しないようにしてください - エンジン音で叫び声が打ち消されることがあります。

伐倒する樹木から最低でも 2 1/2 本分の距離を、確保してください。

伐倒によって木が倒れる方向および退避路の決定

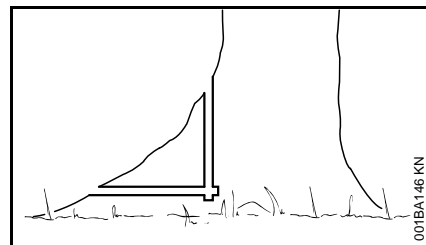
立ち木が倒れる時の空間を把握して確保してください。

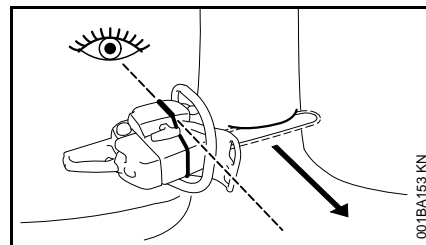
次の点に特別な注意を払ってください：

- 自然に傾いている樹木
- 異常に枝が茂った樹木、非対称に成長した樹木、樹木の損傷
- 風向と風速に留意して、強風時には伐倒を中止してください
- 傾斜方向
- 密集した樹木
- 雪が積もっている木
- 一般的な樹木の状態を考慮して、幹の損傷または乾燥したり、腐食したり、朽ち果てている枯れ木には特別な注意を払ってください

A　伐倒方向
B　退避路

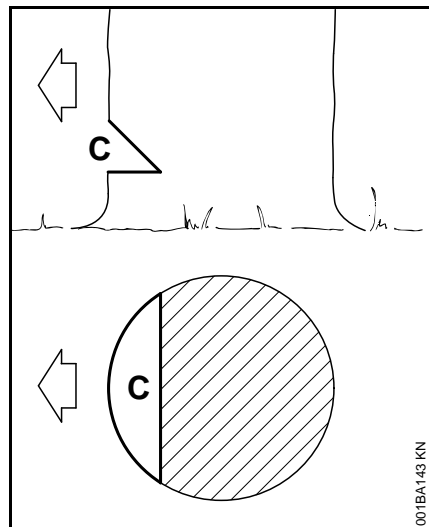
- 作業者ごとに、約 45 度後部に対称の位置を退避路として確保します
- 退避路を掃除して、障害物を排除します
- ツールや機材を安全な距離に置き、退避路には置かないでください
- 伐倒時、常に倒れる幹の脇に立ち、退避路に添って後退します
- 傾斜の場合、斜面に対して平行に退避路を設けます
- 退避時に倒れる木の枝や先端に注意します

幹周辺の作業区域の準備

- 大枝、小枝など、幹周辺の作業地域を清掃して、すべての作業者にしっかりとした足場を確保します
- 斧などで慎重に幹の下部の邪魔なものを取り除きます - 砂、石などの異物があるとソーチェンの性能を劣化させます

- 板根を取り除きます：木が健全な状態な場合は、チェンソーを垂直、次に水平に移動して大きめな枝を先に取り除きます

受け口の切り込み

受け口の切断時に受け口の方向を、シュラウドとファンハウジングを基準に確認できます。

受け口の切り込み時に、木が希望方向に正確に倒れるように、適正に伐採方向を目算できる位置にチェンソーを当てます。

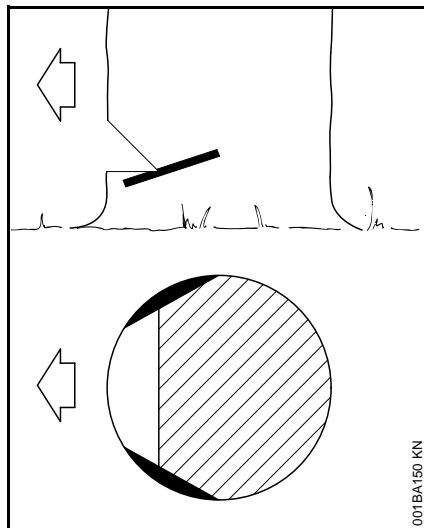
いくつかの受け口切断方法が承認されていますので、伐倒技術は国の規則に準じてください。

伐倒受け口 (C) で伐倒方向が決まります。

当社では次の手順をお勧めします：

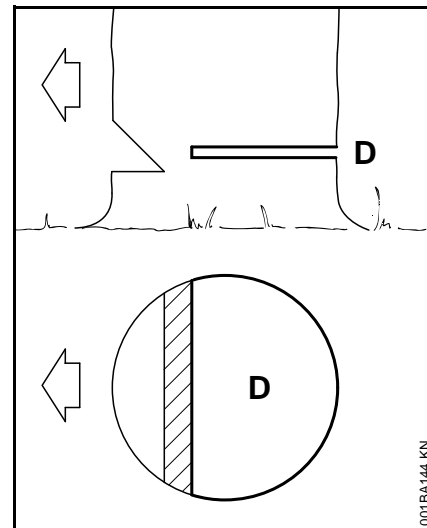
- 木が倒れる方向を目算しながら、水平に切ります
- 約 45 度で斜め切りを開始します
- 伐倒受け口を確認して、場合によっては修正します

重要：

– 受け口は、計画した伐倒方向に直角にします
– できるだけ地面の近くに作成します
– 幹の直径の 1/5 から 1/3 の深さに切り込みます

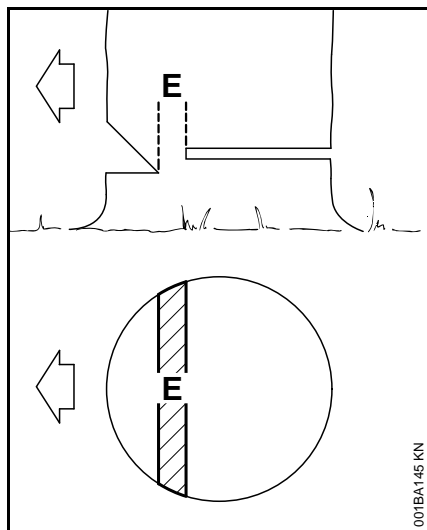
根張り切断

長い繊維を持った軟材を根張り切断すると、樹木が倒れるときに根張りが飛散せずにすみます。幹の両側に受け口底部と同じ高さで幹直径の約 1/10 の深さに、切り込みを入れます。ガイドバーの幅を超えないでください。

病気の木には根張り切断をしないでください。

伐倒

伐倒前に、大きな声で周囲に警告を発してください。

- 追い口 (D) は受け口よりも若干高めの位置から切り始めます

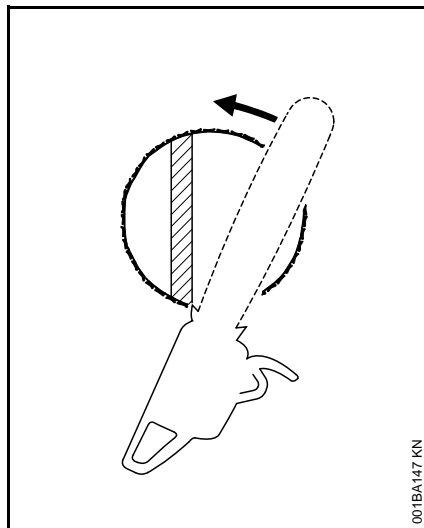
– 水平に切ります
– 受け口と追い口の間を木の直径の約 1/10 ほどを、切断せずに残しておきます。これをつると言います

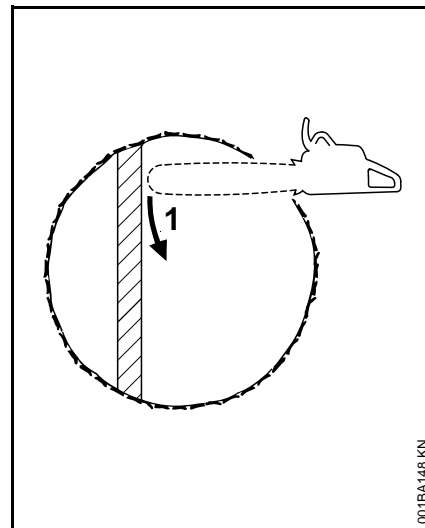
楔を追い口に適時に差し込み、鉄製以外の木製、軽金属製、プラスチック製のいずれかの楔だけを使用します。鉄製楔はソーチェンを損傷して、キックバックする恐れがあります。

つる (E) は伐倒の際にちょうつがいのように作用して、木が倒れるのをコントロールする助けとなります。

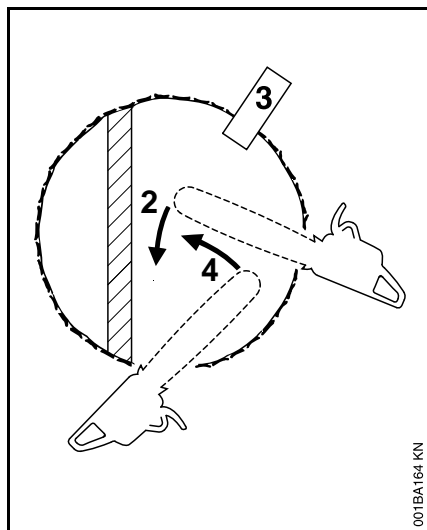
– 伐倒中につるを切断しないでください。計画した方向以外の方向に木が倒れます。**事故の危険があります！**

– 腐っている樹木の場合は、つるを広く残します

樹木が倒れる直前にもう一声、周囲に注意を喚起してください。

細い幹の場合：簡易ファンカット

● つるの後ろにバンパー スパイクをあてて、この点を中心につるまで旋廻して切ります。バンパー スパイクが幹のまわりを回ります。

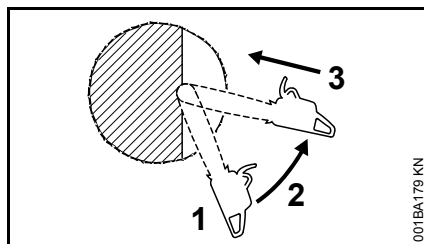
太い木の場合：区分切断法

チェンソー ガイドバーの長さを越えた幹直径には、区分切断法を使用します。

1. **最初の切り込み**
   ガイドバーの先端を蝶番後ろから木に差し込み、チェンソーを正確に水平に保持して、出来る限り回転させ、バンパー スパイクを支点に、チェンソーの位置を最小限度に移動します。

2. 次の切り込み用に位置を修正しているときに、ガイドバーを切り込みから離さず、切り込みにムラがないようにして、再びバンパー スパイクをあてがいます。
3. 楔 (3) の差し込み
4. 最後の切り込み：簡易ファンカットと同様にバンパー スパイクをあてがいます - つるを切断しないでください！

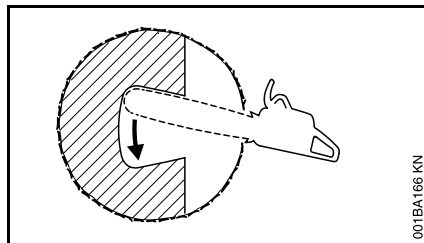
特別切り込み技術

突っ込み切りと心材切断は訓練を受講した、経験ある作業者のみが実施してください。

突っ込み切り

– 傾いた木の伐倒
– 玉切り時の負荷軽減カット
– DIY 作業

● キックバックの少ないチェンを使用して、特に慎重に作業します

1. ガイドバー上部ではなく下部先をあてがって、切断を開始します。**キックバックの恐れがあります！** 切り目の深さがガイドバー幅の 2 倍になるまで切り込みます
2. 突っ込み切り位置に差し込みます。**キックバックやプッシュバックの恐れがあります！**
3. 慎重に突っ込み切りを行います - **プッシュバックの恐れがあります！**

心材切断

– 幹の直径がガイドバーの長さの2倍を超える場合
– 太い樹木で心材の大半が切断されていない場合
– 伐倒が難しいカシやブナなどを、心材が裂けずに、計画した方向に伐倒する場合
– 柔らかめの木の場合、水平方向の幹の張力を緩め、幹の散乱を防く必要があります

● 慎重に突っ込み切りを行います - **プッシュバックの恐れがあります！** 矢印方向に回転します。

枝払い

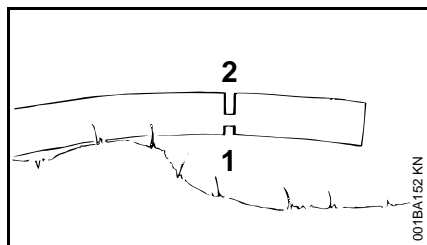
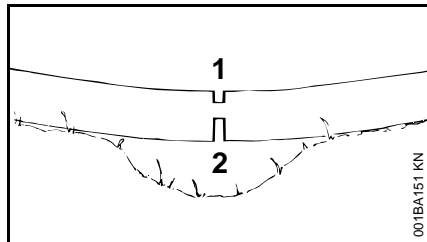
特別なトレーニングを受講した作業者だけが枝払いを実施できます。チェンソーを使い慣れていない作業者は、伐倒や枝払いをしないでください - **事故の危険性があります！**

– キックバックの危険度が低いソーチェンを使用します
– できるだけチェンソーをしっかりと保持します
– 枝払い時に幹に深く切り込まないようにします
– バーの先端で切らないでください
– 張力のかかっている枝に注意してください
– 決して一度に数本もの枝を切らないでください

小枝払い

– 頑強で安定したサポートとして木びき台を使用します
– 木の位置を保持するために足で抑えないでください
– 他の人に木を保持させるなど、作業を手伝わせないでください

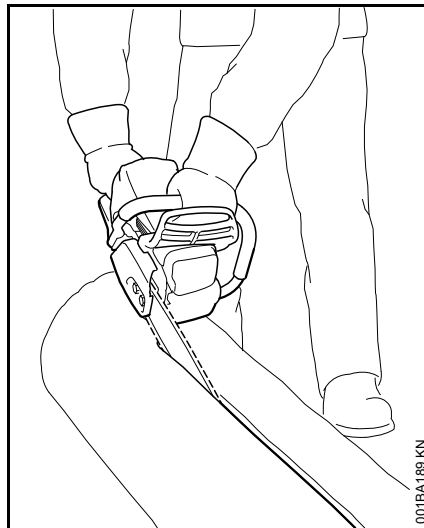
張力がかかった状態で横たわった、あるいは立っている木の切断

最初に圧縮された側 (1)、次に張力がある側 (2) の正しい順序で切断して、キックバックや挟まる危険性を回避します - **ケガの危険があります！**

- 圧縮がかかっている側 (1) に負荷軽減カットを入れます
- 張力がかかっている側 (2) に玉切りを入れます

底部から上部に向けて玉切りする場合、**プッシュバックの恐れがあります！**

注記

チェンが損傷しますので、倒れた木材が地面に触れた位置で切り込まないでください。

縦引き

バンパー スパイクを使用せずに切断する技術で、プルインの恐れがあります。ガイドバーを浅めの角度で差し込み、注意深く作業します。**キックバックの恐れがあります！**

振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります (「白ろう病」)。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

– 手の防護 (暖かい手袋)
– 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

– 血行不良の特殊体質 (症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く)。
– 低い外気温。
– ハンドルを掴む力の強さ (掴む力が強いと血行が低下します)。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状 (指のしびれ等) が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら (指が疼くなど)、医師にご相談ください。

整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して、不明な方はスチール サービス店へお問い合せください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するために、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。- 例外：キャブレター及びアイドリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態でスターターを操作してエンジンを始動する場合は、スライドコントロール / ストップスイッチを STOP または 0 の位置にしてください。火花が飛んで**火災を起こす危険**があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィラー キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパーク プラグだけを使用してください - 「技術仕様」の項を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと (良好な絶縁状態、接続の確実性) を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。-

高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状況に左右されます - 定期的に防振部品を点検してください。

チェン キャッチャーを点検し、損傷している場合は交換してください。

エンジンの停止

– チェンの張りを点検するとき。
– チェンの張りを再調整するとき。
– チェンを交換するとき。
– 問題に対処するとき。

目立てに関する注意事項を守ってください - チェンソーを安全に正しく扱うため、チェンとガイドバーを常によい状態に保ってください。チェンは正しく目立てをして張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェン、ガイド バーおよびスプロケットは、常に余裕を持って取り替えてください。

クラッチ ドラムの状態を定期的に点検します。

燃料とチェンオイルの保管には、ラベルの付いた安全な容器のみを使用してください。ガソリンを取り扱うとき、直接肌に触れたり、ガソリン蒸気を吸い込まないようにしてください - **健康上のリスクがあります。**

ケガをしないように、チェンブレーキが故障した場合は、直ちにエンジンを停止してください - スチール サービス店にお問い合わせください - 修理するまでパワーツールを使用しないでください (「チェンブレーキ」を参照)。

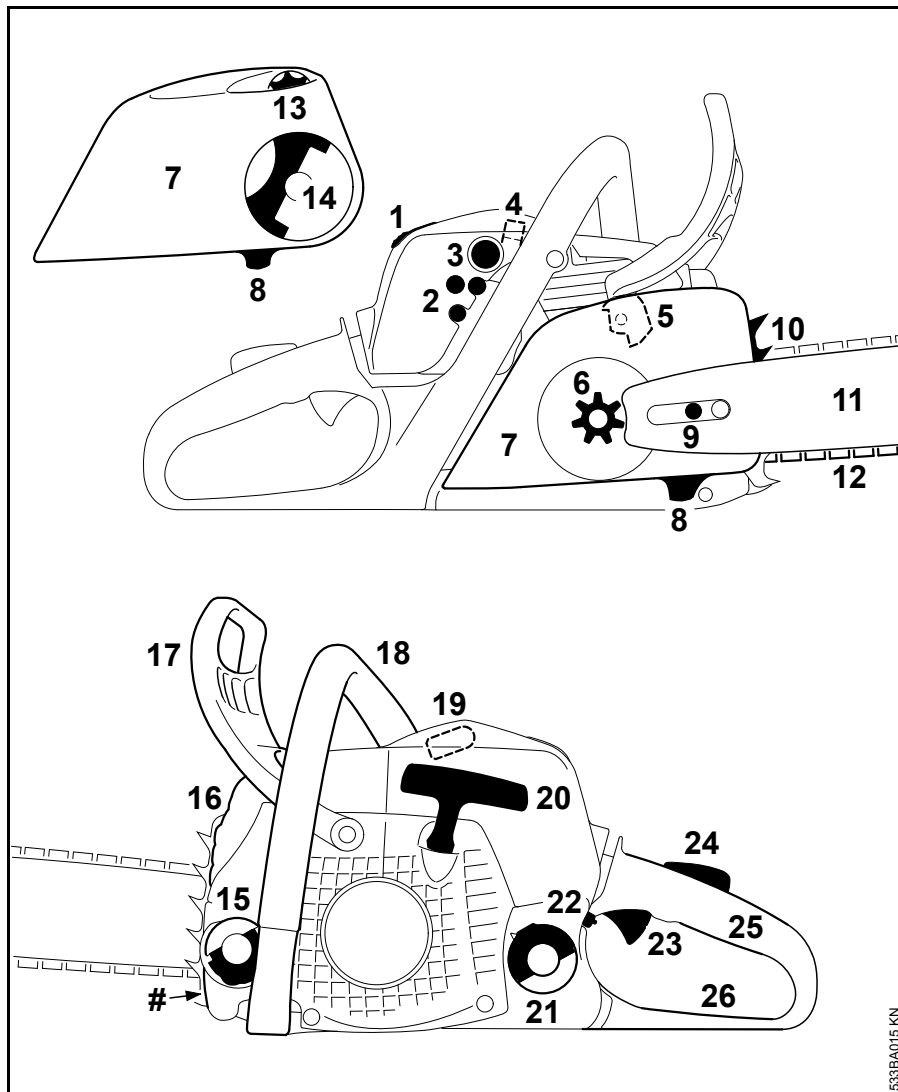
整備表

次の整備間隔は通常の作業条件を対象としていることに注意してください。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合 (非常にほこりの多い場所、樹脂分の多い樹木、熱帯樹など) は、それに応じて、表示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		始動前	作業終了後または毎日点検	燃料給油時	毎週	毎月	12 ヵ月毎	故障の場合	損傷の場合	必要な場合
機械本体	目視検査 (状態と漏れ)	X		X						
	掃除		X							
スロットル トリガー、トリガー ロックアウト、チョーク レバー、停止スイッチ、マスター コントロール レバー (機種によって異なる)	作動検査	X		X						
チェン ブレーキ	作動検査	X		X						
	点検はサービス店に依頼してください [1]									X
燃料タンク内のピックアップ ボディ / フィルター	点検					X				
	洗浄、フィルターの交換					X		X		
	交換						X		X	X
燃料タンク	掃除					X				
チェンオイルタンク	掃除					X				
チェン オイル	点検	X								
ソーチェン	点検、目立の状態を検査	X		X						
	ソーチェンの張りを点検	X		X						
	目立て									X
ガイド バー	点検 (磨耗、損傷)	X								
	掃除、ガイドバーを裏返しにする									X
	バリを取る				X					
	交換								X	X
チェン スプロケット	点検				X					
エアー フィルター	掃除							X		X
	交換								X	

次の整備間隔は通常の作業条件を対象としていることに注意してください。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合 (非常にほこりの多い場所、樹脂分の多い樹木、熱帯樹など) は、それに応じて、表示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		始動前	作業終了後または毎日点検	燃料給油時	毎週	毎月	12 ヵ月毎	故障の場合	損傷の場合	必要な場合
防振エレメント	点検	X						X		
	交換はスチール サービス店に依頼してください [1]								X	
冷気吸引開口部	掃除		X							
シリンダー フィン	掃除		X			X				
キャブレター	アイドリング調整の点検 - チェンは回らないこと	X		X						
	アイドリング調整									X
スパーク プラグ	電極ギャップの調整							X		
	100 運転時間ごとに交換									
すべてのスクリューとナット (調整スクリューを除く)[2]	締め直し									X
マフラーのスパーク アレスター スクリーン (取り付けられていない市場もあります)	検査 [1]							X		
	必要に応じて洗浄あるいは交換します [1]								X	
チェン キャッチャー	点検	X								
	交換								X	
安全ラベル	交換								X	

[1] 当社ではスチール サービス店に依頼されることをお勧めします。

[2] プロ用チェンソー (出力 3.4 kW 以上) では 10 ~ 20 時間使用後、シリンダー スクリューをしっかり締め直してください

主要構成部品

1 シュラウド スライド
2 キャブレター調整スクリュー
3 燃料ポンプ (イージースタート [1])
4 スライド (夏期作業 / 冬季作業、MS 211 のみ)
5 チェンブレーキ
6 チェン スプロケット
7 チェン スプロケット カバー
8 チェン キャッチャー
9 サイドチェンテンショナー
10 バンパー スパイク
11 ガイドバー
12 オイロマチック ソーチェン
13 調整ホイール (クイック テンショナー)
14 ウィング ナットのウィング [1] (クイック テンショナー)
15 オイルフィラー キャップ
16 マフラー
17 前ハンドガード
18 前ハンドル (ハンドルバー)
19 スパーク プラグ ブーツ
20 スターター グリップ
21 燃料タンク ツイストロック
22 マスター コントロール レバー
23 スロットル トリガー
24 スロットルトリガーインターロック
25 後ハンドル
26 後ハンドガード
機械番号

---

[1] バージョンによって異なります